

特集

対話のプロセスを支援する 倫理カンファレンスの技法

ジレンマ・メソッド

近年、ACP、意思決定支援が注目されており、各施設で臨床倫理に関する取り組みが加速しています。臨床倫理上の課題については、最終的には当事者間で話し合い、その患者にとっての最善の判断を導く必要があります。

これまでさまざまな事例検討の枠組みが試されてきましたが、情報整理のツールとしての意味合いが強く、多職種間で検討するための話し合いや対話の方法を具体的に示すものではありませんでした。

本特集で取り上げる「ジレンマ・メソッド」は、対話のプロセスを支援する構造化された倫理カンファレンスの技法です。事例提供者の問題意識、困りごとに焦点を当てて話し合いを進めます。誰かに特権的な権威を認めず、困難事例に関わる全ての人が共に考えるための具体的な道筋を示すものです。組織やチームに対話の文化をつくることにも期待できます。

本特集では詳細な解説と模擬カンファレンスの採録記事を通じて、その全体像と臨床にもたらす価値を紹介します。